
時の流れに追い付けず

無名

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時の流れに追い付かず

【Nコード】

N5743A

【作者名】

無名

【あらすじ】

ああああああああああああ

飯

人は、なんの為に生きてるのだろう。

なぜ生きなきゃ行けないのだろう。

生きる理由もないのに

なぜ生きなきゃいけない？

不安

人は、どうして生きてるの？

大抵の人は、

『生まれてきたから』

『親に貰った命だから大切にしたい』

『生きて、目的を果たしたい』

と、言う。

でも……

生まれてきた事に後悔し、

生きる目的もない人は、どうすればいい？

僕は、生まれて来た事に後悔しています。

高校に入学してすぐ僕は、不登校になりました。

その後、働くから。と、そう言って高校を辞めました。

でも甘く考えてました。

仕事を始めてみたのは良いものの、長く続けられませんでした。

何度か、職を変えたけど、どれも続きません。

その時思っ たんです。

なぜ働かなきゃいけないのか？

僕は、生きていて楽しくない。
将来の夢なんてない。

やりたい事なんて1つも無い。

それなのに、なぜ生きてなきゃいけないのか？

何度も死のうと考えたけど、いざ死ぬ。となると結構怖いもので。

僕は、そのまま働かずに2年がたちました。

もちろん親は、黙っていません。

早く仕事をしろ。

あと数カ月待って仕事を見つけなかったら追い出す。

当然です。

今までずっと親に頼って生きてきたんだから。

僕は、そんな事を毎日の用に言われ、だんだん嫌になってきました。

僕は、なにもやりたい事がない。もし、このまま生きていたら、将来が不安で生きてるのが嫌で…。

僕が死ねば、親は一生懸命に働かずに、生活できる。

僕がいなくなれば…

そう思い、僕は手首を切りました。

一度目は、浅く

二度目、三度目と、だんだん深く切りました。

でも、血は沢山でるのに、なんともありません。

死ねない自分が嫌です。

これ以上、誰かに迷惑をかけないように、早く死にたいのに 死ねない。

僕は、普通に生活するのすら嫌になりました。

それから少したって、
6月。

もう結構暑い日が多いです。

でも僕は、長袖

半袖を着ると、家にいる姉にバレるから。

暑いのを我慢して隠してきたけど、長くは、続きませんでした。

風呂から上がったとき、暑くて上着をきていませんでした。

それを、ちょうど姉に見られてしまいました。

すぐに服を来て隠したけど、ダメでした。

姉は、僕の部屋にきて、

『なんでリスカとかしてんの？バカなんじゃない？』

『なんで、リスカしたか理由を言え』

と言いました。

でも、僕は、理由を言えませんでした。

今まで育ててくれた親の事を考えると、とても悪い気がして…

姉は、理由を言わないなら親に言う。と言いました。

この事がバレれば、親は、どうなるでしょう？

僕は、姉を止めました。

でも姉は、理由を言わないなら言う。と言うばかり。

それを繰り返していると、

姉は、友達と電話するから。とりびングに行きました。

僕は、親に言われると思い、止めたけど、姉は

『絶対に言わないから』

と言ったので、僕は、部屋に戻りました。

少し経つと、話声が聞こえてきました。

心配になった僕は、少しドアを開け聞いてみました。
すると

『アイツ、リストカットとかしてるよ。頭おかしいんじゃない？親にバラした事が、アイツにバレたら殺されそうじゃない？アイツ頭おかしいし』

姉は、少し笑いながら言っていました。

怒りなんて湧いてきません。

むしろ悲しくて仕方ありません。

僕は、皆から、そんな風に思われているのでしょうか？

僕は頭がオカシイのでしょうか？

将来目的がない。

毎日が楽しくない。

生きていても誰かに迷惑をかける。

だから 死ぬ

これは、頭がオカシイから、こんな考え方をしてしまうんでしょうか？

しばらくして、親から電話がありました。

普段かかってこないのに。

姉が親に言ったのは、確実です。

電話にでると、親は、僕がリストカットした事を知らないかのように、こう言いました。

パソコンで、いろいろ作ってくれ。1つにつき、お金をあげる。

それと、今度仕事が休みだから、遊び行こう。と

とても悲しくなりました。

僕は、お金なんてほしくありません。

遊びに行っただって楽しくないんです。

僕は、親にリストカットした事を叱ってほしかったのかもしれない。

でも親は、してくれませんでした。

僕の機嫌をうかがっているみたいで…。

親も僕の事を、頭がオカシイと思ってるんでしょう。

だから、あんな優しい事を言うんでしょう。

家族に変人あつかいされるのは、一番ツライ事だと思います。

もう生きて行けない。

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5743a/>

時の流れに追い付けず

2010年10月16日14時05分発行